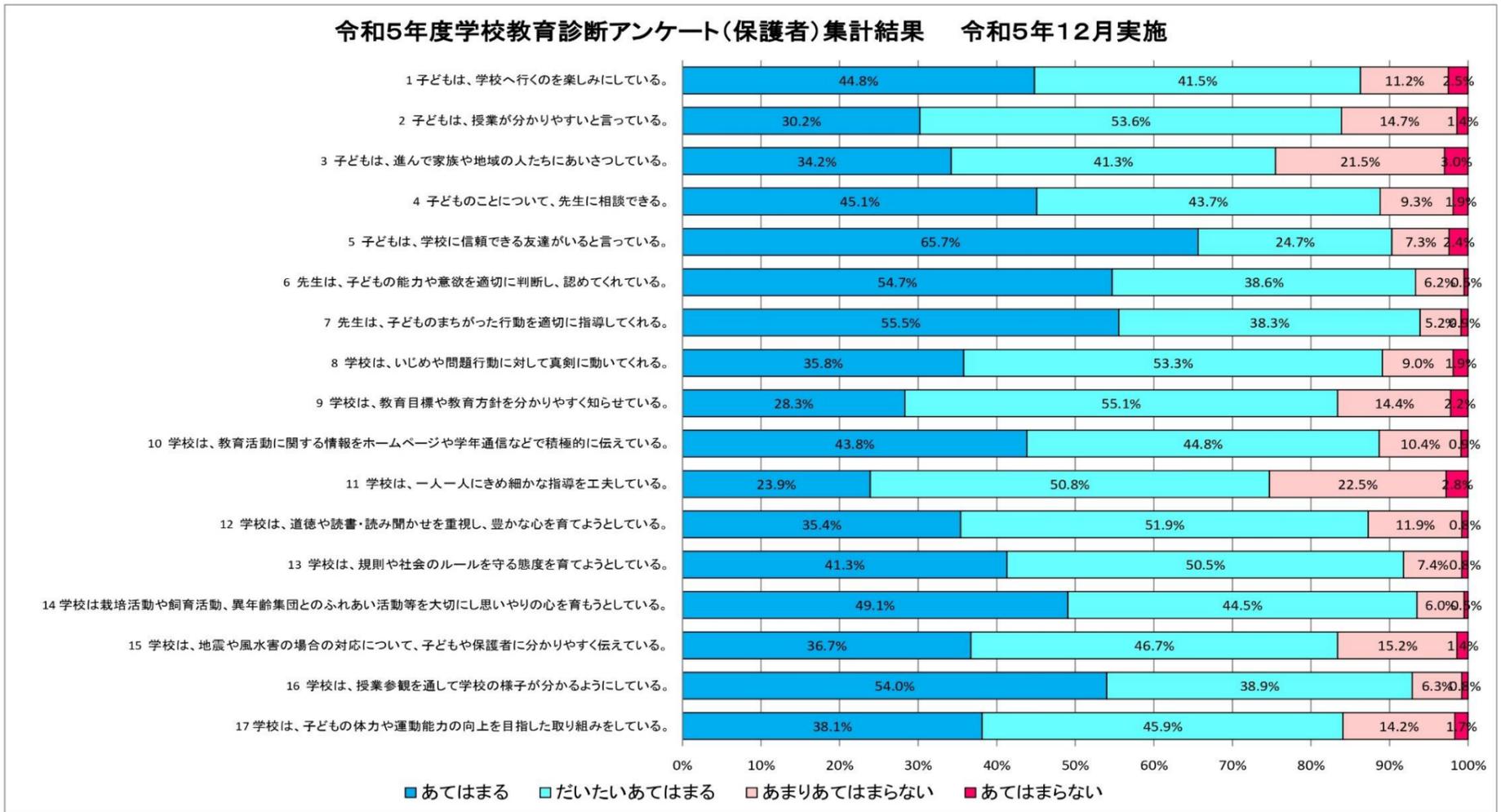


令和5年度幸田小学校学校教育診断アンケートの集計結果について

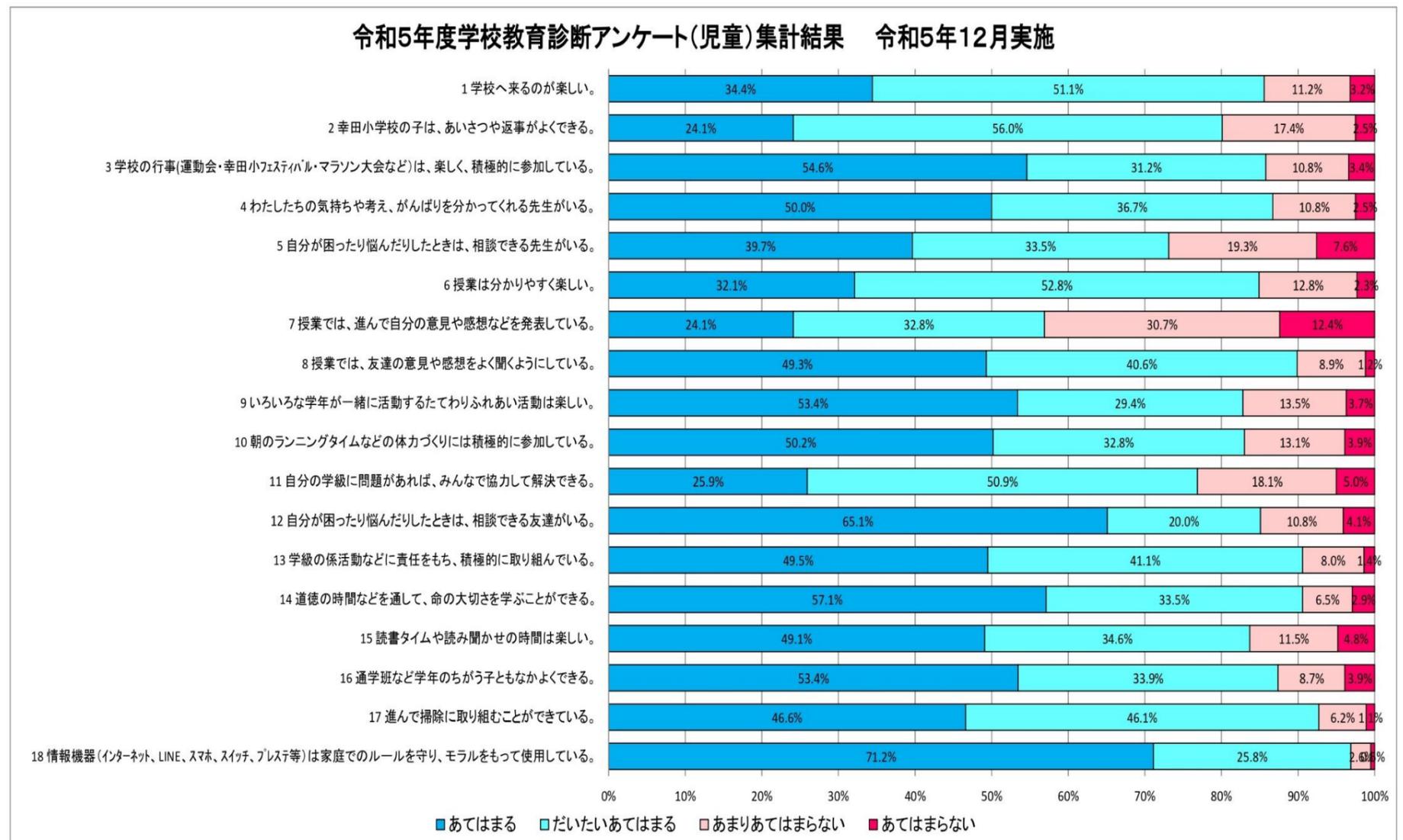
令和6年2月22日

12月にお願いをして実施いたしました幸田小学校「学校教育診断アンケート」の集計結果を、下記の通りお知らせいたします。ご多用のなか、ご協力有り難うございました。この結果をもとに、より充実した教育活動が展開できるよう改善できるところから取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1 集計結果一覧グラフ（保護者）



2 集計結果一覧グラフ（4～6年児童）



3 調査結果から見た傾向や特徴 ※ () 内の数値は、昨年度との比較

楽しい学校生活

「1 学校へ来るのが楽しい」と答えた児童は85.5% (+6.9%) で増加、「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」と答えた保護者は86.3% (+3.9%) と、いずれも昨年度よりも増加しました。「つながりと温もりのある学校」=幸田小ファミリーの実現を目指し、「安心・安全な」「愛される」「信頼される」学校づくりに努力してきた結果、児童・保護者から、このような評価を得られたことを大変うれしく思います。一方で、「あまりあてはまらない」と答えた児童・保護者も10%程度います。さらに教職員間の連携を強化し、目の行き届いた教育、学校づくりに努めていきたいと思ひます。

学ぶ意欲を高める授業

「2 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」と回答している保護者は83.8% (+7.6%) で昨年度よりも増加しています。「6 授業が分かりやすく楽しい」と回答している児童は84.9% (+5.4%) と増加しました。「7 授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」と回答している児童は56.9% (+12.4%)、「8 授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と回答している児童も89.9% (+4.0%) と、いずれも昨年度よりも大幅に増加しました。コロナ禍における行動制限も緩和され、ペア活動やグループ活動、学級での話し合い活動など、仲間と共に学び合う機会が増えたことが大きく影響しているのではないかと考えられます。また、タブレット端末も本格的に活用されるようになり、子どもたちの思考を視覚的に支えていることも理解力の向上に寄与しているのではないかと考えられます。さらに、子ども同士で学び合い、高め合うことができる授業づくりに向け、研鑽を深めていきたいと思ひます。「11 学校は、一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫している」と回答している保護者は74.7% (+10.8%) と、昨年度に引き続き大幅に増加し、高い評価を得たことを大変うれしく思ひます。教職員一人一人が、児童一人一人の思いに寄り添い、感じ取り、個に応じた指導を心がけた成果と考えます。今後も保護者の皆様と連携を深め、より一層児童一人一人に応じたきめ細かな指導を心がけ、ますますの信頼を得られるよう努力していきたいと思ひます。

基本的な生活習慣

「2 幸田小学校の子は、あいさつや返事がよくできる」と回答した児童は80.1% (+6.9%)、また「3 子どもは、進んで家族や地域の人たちにあいさつしている」と回答している保護者は75.5% (+9.0%) と、いずれも増加しました。あいさつには、「相手への尊敬や親愛を表す」意味があります。「笑顔であいさつ」「相手に伝わるあいさつ」「目を見てあいさつ」など、企画委員会の活動とも連携し、さらに爽やかなあいさつができる児童を育てていきたいと思ひます。

一人一人を大切にされた教育活動・いじめ等への対応

「12 自分が困ったり悩んだりした時は、相談できる友達がいる」と回答している児童は85.1% (-1.7%) と例年同様、高い数値を示しました。また「4 子どものことについて、先生に相談できる」と回答している保護者は88.8% (+6.9%) と昨年度に引き続き増加しました。「5 自分が困ったり悩んだりしたときは、相談できる先生がいる」と回答している児童は73.2% (+9.1%) と大きく増加しました。子どもたちの心に寄り添い、児童が悩みや苦しみを一人で抱え込むことなく、気軽に相談できる雰囲気・体制作りにも努め、さらに信頼される教職員集団を目指していきたいと思ひます。「6 先生は、子どもの能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」と回答した保護者は93.3% (+4.8%)、「4 わたしたちの気持ちや考え、がんばりを分かってくれる先生がいる」と回答した児童は86.7% (+8.7%) と、保護者、児童とも高い数値を示しました。一方で、認められていない、分かってもらえていないと感じている児童も少なからずいることが分かります。教職員一人一人が、児童のささいな変化に気づき、事態を見つめ、児童の内面を見抜く力をさらに高め、児童一人一人の心

に響く、そして、良いところを認め伸ばす指導を大切にしていきたいと思ひます。

「8 学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる」と回答した保護者が89.1% (+24.5%) と、昨年度より大幅に増加しました。生活アンケートや個別面談の実施、いじめ・不登校対策委員会や週1回の情報交換会、学期に1回の専門機関の職員を交えての事例検討会の実施等、全職員で情報を共有し、早期対応を心がけてきました。また、人権教育・道徳教育を通して、多様性を認め、温かい人間関係を育む活動を充実させてきました。「いじめは絶対に見逃さない」という教職員の鋭敏な感覚を高め、「本当にいじめに苦しむ子どもたちはいないか」という視点を持ち、児童のわずかな変化にいち早く気づき、問題を未然に防ぐ等、保護者や児童から信頼される学校・学級づくりをさらに努めていきます。

開かれた学校

「9 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている」と回答した保護者は83.4% (+16.1%)、「16 学校は、授業参観を通して学校の様子分かるようにしている」と回答した保護者は92.9% (+10.6%) と、大幅に増加しました。学校・保護者・地域が連携・協働し、新しい時代に求められている資質・能力を子どもたちに育む『コミュニティ・スクール』も、来年度から本格的に運用が始まります。「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、学校の教育方針を理解して頂くことは不可欠です。今後も分かりやすい発信を心がけ、ホームページや学校だより、学年・学級通信等を通じ、学校の教育活動の様子をお伝えしていきます。

心の教育

「12 学校は、道徳や読書・読み聞かせを重視し、豊かな心を育もうとしている」と回答した保護者は87.3% (+15.1%)、また「14 道徳の時間などを通して、命の大切さを学ぶことができる」と回答している児童の割合は90.6% (-0.1%)、「15 読書タイムや読み聞かせの時間は楽しい」と回答している児童の割合は83.7% (+4.4%) となっています。豊かな情操を育むことは、児童の人間力の向上にもつながります。今後も読書タイムや読み聞かせの時間を大切に、心の教育の充実にも努めていきたいと思ひます。「17 進んで掃除に取り組むことができている」と回答している児童が92.7% (+7.0%)、「13 学級の係活動などに責任を持ち、積極的に取り組んでいる」と回答している児童が90.6% (+1.4%) と割合として高く、学級内において児童一人一人が役割を持ち、責任を果たしていることも結果として出ています。しかし、「11 自分の学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる」と回答した児童は、76.8% (+2.5%) と微増でした。子どもたちの責任感、意欲を大切に育てながら、子どもたちが自分たちの手で問題を解決していける自治的能力を育てていきたいと思ひます。「9 いろいろな学年と一緒に活動するたてわりふれあい活動は楽しい」と答えた児童は82.8% (+3.3%) となっています。「16 通学班などの学年のちがう子どももなかよくできる」と回答した児童は87.3% (+9.3%) となりました。縦割りふれあい活動を通して異年齢集団との関わりを大事にしてきた成果と言えます。保護者・地域の皆様と協力して結成した『スクールガード』の活動もあり、通学班でのトラブルは減少してきましたが、まだまだいくつかのトラブルは発生しています。安心・安全な登下校の実現のためにも、今後も多くの保護者・地域の方が『スクールガード』に参加して頂けることを期待しております。なお、『スクールガード』については、随時募集しておりますので、いつでも学校(担当:教頭)へお声かけください。

体力づくりへの取組

「17 学校は、子どもの体力や運動能力の向上を目指した取り組みをしている」と回答した保護者は84.0% (+18.2%)、また、「10 朝のランニングタイムなどの体力づくりには積極的に参加している」と回答した児童も83.0% (+4.4%) と、いずれも増加しました。限られた時間と場所ですが、実施方法を工夫し、今後も児童の体力向上にも努めていきたいと思ひます。